



TOHO ASEAN REPORT

【とうほうアセアンレポート】

2023年3月号

Contents

☆ アセアン企業インタビュー

UCHINUKI (THAILAND) CO.,LTD.

President 岩佐 昌宏 様

☆ アフターコロナの状況について

タイレポート : カシコン銀行派遣 瀬谷 純一

ベトナムレポート : 法人コンサルティング部
(前ベトコムバンク駐在) 松岡 政晃

☆ ASEAN ニューストピックス

☆ 東邦銀行の海外事業支援に係る連携・業務提携先

本レポートに掲載されているデータや資料は情報提供を目的としたものであり、
当行が信頼に足り、且つ正確であると判断した情報に基づき作成したものではありません。
具体的には法律上、会計上、税務上の助言を必要とされる場合は、それぞれの専門家にご相談
くださいますようお願い致します。



すべてを地域のために

東邦銀行

アセアン企業インタビュー

UCHINUKI (THAILAND) CO., LTD.

～品質とサービスで現地材と差別化～

企業概要

代表者：岩佐昌宏（いわさまさひろ）President

所在地：333/10 Moo 9 Bangpla, Bangplee, Samutprakarn,
Thailand 10540

事業内容：パンチングメタル関連 製造・販売

設立：2014年7月 UCHINUKI(THAILAND) Co., Ltd.
2015年10月 UCHINUKI INDUSTRY
(THAILAND) Co., Ltd.

従業員数：13名

親会社：株式会社ウチヌキ（神奈川県綾瀬市）

岩佐昌宏 President

1985年(株)ウチヌキ入社
神奈川県綾瀬本社

1991年 福島工場に転勤

2000年 神奈川本社に勤務

2014年 タイ現地法人設立に

伴い代表に就任



今回のアセアンレポートでは、タイでのビジネスチャンスに挑戦し続けている企業のひとつである「UCHINUKI(THAILAND)CO.,LTD.」（親会社/株式会社ウチヌキ）President 岩佐昌宏様へのインタビューを掲載いたします。

株式会社ウチヌキ様は神奈川県綾瀬市を本社とし、福島県西白河郡中島村に工場を構えるパンチングメタル関連の製造・販売会社です。新たなビジネスチャンスを掴みに進出した、タイでの事業内容と今後の展望についてお話を伺いました。

■タイ拠点の重要性を痛感

ータイ進出のきっかけについて教えてください

事業拡大を目的に海外展開を進めており、2010年頃より、ベトナム・ホーチミンに着目して現地視察を繰り返していました。その時点では中小企業が初めて海外進出を行う場所としてはハードルが高いと感じていたところ、2013年3月にタイ・バンコクに渡航する機会があり、初めてタイを訪れました。タイの日系企業と日本人の多さを目の当たりにして、課題の販売先・仕入先と現地赴任者の生活面に対して安心感を得たことを記憶しています。

その後、企業訪問・商談会等を目的として出張ベースで訪タイを重ねておりましたが、その際に、面談先の担当者様から一様に「タイに拠点が出来てから、再度面談しましょう。」との言葉を頂きました。

このような経緯から、2014年、販売先リサーチを目的として、「UCHINUKI (THAILAND)」を設立し、営業活動を開始しました。

その後6ヶ月間、企業訪問・商談会への参加を行い、自社製品のPRを行いました。 「製造拠点が無いと商談にならない」とのステップアップのご意見を多く頂き、2015年7月に製造会社として、「UCHINUKI INDUSTRY (THAILAND)」を設立。2016年5月にBOI*を取得し、現在に至ります。

※BOI：タイ国内で外国資本の参入が規制されている業種（製造業等）であっても、BOIの認証を受けることで100%外資による進出が可能となる制度。



<工場・事務所社屋>



<工場内の様子>

■日本の品質・サービスをタイ国内で提供

一事業内容について教えてください

パンチングメタル製造をメインに、付帯する板金・溶接・表面処理等を施し提供しています。パンチングメタルについては、最小径φ0.7から受注しており、素材に関しては鉄・非鉄・樹脂・複合版（Composite Panel）等の取り扱いがあります。少量品・量産品共に受注を頂いており、日本の品質・納期対応をタイ国内にお届けしています。

株式会社ウチヌキの福島工場ではタイ人の技能実習制度を活用しており、現在4期目となりました。3年間の実習期間を終えタイに帰国した実習生のほぼ全員が弊社に入社しています。日本で技術を学んできているため、製造に関しては日本と同等の生産性を保持しています。

タイ工場の生産設備は、日本からそのままの状態で購入したものを使用しており、品質の安定化を図ることが可能となっています。



<工場内でプレス加工を行う従業員の様子>



＜製造製品 左：ドラム式洗濯機のドラム部分 右：エアコン室外機のスレーナー＞

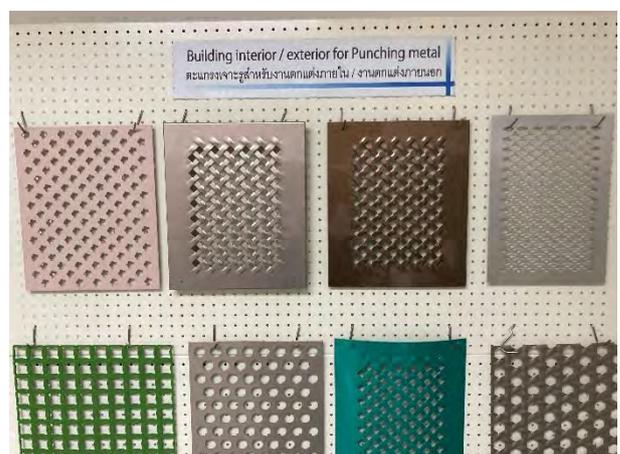
■品質・サービスが認知されるまで

ータイ進出時のエピソードを教えてください。

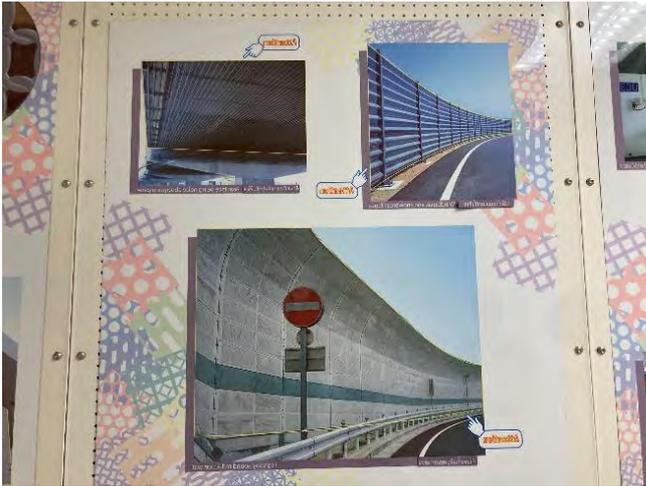
タイに進出してから約2年半は、売上が上がるまで大変苦労しました。取引先を一から開拓する必要があったため、商談会への参加、他の日系企業からの紹介により営業活動を行っていました。

タイでの取引で感じることは、日本と違い義理・人情が感じられない所です。過去の取引実績よりも、価格が最重要視されることが多いと感じています。また、言語の壁を感じることもあります。タイ人スタッフ同士で顧客との打ち合わせが行われることも多くありますが、事前に打ち合わせしていた内容と違っていたというケースもありました。思った通りに行かないことも多く、タイで経営をする上で一番重要なことは忍耐だと感じました。現在は弊社の品質・サービスが認知され、日系企業だけでなく、アメリカ企業・中国企業との取引もございます。

パンチングメタル製造を行っている企業は、タイのローカル企業にもいくつかあり、それらの企業と競合することがあります。価格面ではローカル企業に優位性がありますが、弊社は品質とサービスが強みです。一度、価格面を重視され、取引をローカル企業に切り替えられたことがありましたが、1ヶ月後には再度弊社に依頼をしたいとの連絡を頂きました。他社と取引を行ったことで、弊社の品質とサービスを再度実感していただけたようです。



＜特徴ある製品 左：グラフィックパンチング 右：建築外装・内装用パンチングパネル＞



＜当社製品使用例 左：高速道路の防風・防音壁

右：TVスピーカーカバー＞

■コミュニケーションを重視したマネジメント

ータイと日本の業務や労働環境の違いについて教えてください

基本的には、日本とあまり変わらないという印象を持っています。各部門のコミュニケーションを大事に考えていて、製造・品質管理・工程管理の管理者で毎朝 10 分程度のミーティングを実施し、前日の生産数量・品質状態・受注状況の確認・工程進捗状況等の情報を共有しています。問題があれば、10 分ミーティング内で指示・事後確認を取り、早期解決に繋がっています。毎日のコミュニケーションの重要性は、日本もタイも変わらないと思っています。

日本と違う点では、タイでは終身雇用の考え方はなく、転職によってスキルアップ・収入増を考えている方が多く存在します。特にストレスには敏感に反応して、離職に繋がるケースが多いようです。

■面談スタイルの変化

ー新型コロナウイルスの影響でどのような変化がありましたか

コロナウイルスには小職を除き、全従業員が感染しました。幸いにもクラスター感染ではなかったので、工場閉鎖といったような生産活動に支障が出ることはありませんでした。

今現在でも、顧客との面談は少なくなったと感じています。しかし、新規案件のお引き合いが無くなったとは思っていません。打ち合わせ内容により、面談手段を考慮しているようです。例えば、連絡はメールで進める。図面等を含めての打ち合わせはウェブミーティングを使用するといった形です。トラブルや重要な打ち合わせは対面での面談を実施しています。

■拡販期を迎えた今

ー今後の展望について教えてください。

UCHINUKI (THAILAND) の創業から 9 年目となり、立ち上げ期から拡販期を迎えた今、顧客の新規開拓・売上・生産性の安定化を目指しています。特にコロナウイルスの蔓延により、営業活動が制限され、従来の手法以外の活動方法が求められています。現在、新しい時代に合わせた、営業活動・生産活動・顧客へのサービスを思案中です。また、ASEAN 近隣諸国への拡販を目指し、PR 活動も視野に入れていきます。

タイレポート

「タイのアフターコロナの状況」

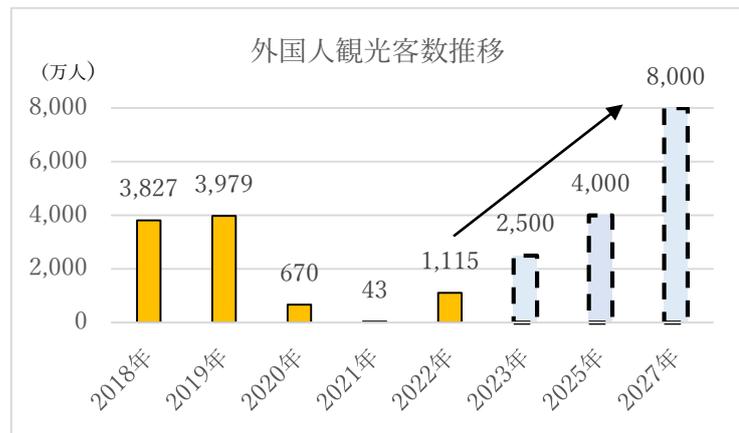
タイ国内では、新型コロナウイルスの拡大がほぼ収束し、2023年は景気の本格的な回復に向けた期待が膨らんでいます。タイ政府は積極的に外国人観光客の受入を行い、観光業の再生に向けた取り組みを強化しています。

今回はアフターコロナの段階にあるタイの現状についてレポートいたします。

1. 観光客数の推移

日本人にとっても人気の観光地であるタイには世界中から観光客が訪れており、2019年の海外からの年間観光客数は約4,000万人となっていました。その後、新型コロナウイルスの影響による渡航制限等により外国人観光客は激減し、2020年は670万人、2021年は43万人にまで落ち込みました。現在は渡航制限が解除されたこともあり、外国人観光客数は戻り始め、2022年は1,115万人にまで回復しました。国・地域別ではマレーシア人が最多で、以下インド、ラオス、カンボジア、シンガポールとなっています。コロナ前の2019年には1,000万人を超えて最多だった中国は約29万人で14位でした。

タイ国政府観光庁によると、中国が海外旅行規制を緩和したこともあり、2023年の観光客数は2,500万人となり、2025年までにはコロナ禍前と同水準の4,000万人にまで回復する見通しです。また、2027年には2019年の2倍となる8,000万人の観光客数を目標としています。



出所：タイ観光・スポーツ省（2023～2027年は予測値）

2. タイ国内の現状

現在、タイでは入国に係る規制を撤廃しており、ワクチン接種の有無に関わらず観光目的での入国が可能となっています（2023年2月初旬時点）。また、2022年9月末の非常事態宣言の解除に伴い、義務化されていたマスク着用は推奨となり、新型コロナに感染した場合も、軽症又は無症状であれば自己隔離不要で外出可能となりました。感染者数の発表も行っておらず、タイはアフターコロナの段階に入っています。

1月下旬には旧正月である春節を迎え、中華系タイ人を中心に多くの人で賑わっていました。春節の4日間では、約10万人の中国人観光客がタイに訪れると予測されていたため、中国人で賑わっているかと予想されましたが、個人的な体感ではあまり見かけなかった印象です。タイ政府は中国人観光客の歓迎ムードを高めており、中国からタイへの団体旅行の解禁に伴い、今後、タイを訪れる中国人観光客の増加が見込まれます。



<春節時期のバンコク・チャイナタウンの様子。中華系タイ人が多く、賑わっている>

3. 観光業の再生に向けて

コロナ禍以前において観光業はタイGDPの2割を占める産業であり、タイ経済の成長に観光業の再興は欠かせないものとなっています。特に前述の通り中国の影響は大きく、2023年は中国からの観光客が500万人を超える見通しです。中国の海外旅行解禁により、日本を始め、欧米の一部地域では中国人の入国規制を強める国もありましたが、タイにおいては当初入国規制強化を発表した後、すぐに撤回しました。これは春節シーズンにおける中国人観光客の受入を考慮したものと推察されます。

タイ政府は中国人観光客の増加を追い風に、向こう5年間で観光収入を2019年の2.5倍の5兆バーツ（約19兆6,000億円）にまで引き上げることを目指しています。観光収入増加のために、2023年6月から外国人旅行者を対象とした観光税の徴収が開始される予定であり、外国人の入国者に対し、一回当たり300バーツ（約1,170円）が徴収されます。また、2021年からタイ政府内でカジノの合法化について議論が交わされており、外国人観光客の誘致に向けた取り組みを強化しています。



<左：人通りが回復したバンコクの様子 右：渋滞する道路の様子。観光客が増加しタクシーの数も増加>

4. 終わりに

タイでは入国規制が撤廃されて以降、景気の回復が続いており、2022年のGDP成長率は新型コロナ流行前の水準に回復する見通しです（GDP成長率：2019年1.5%、2022年3.4%）。観光業の回復は国内で失業率の低下にも繋がっており、今後も観光業の取組強化が予測されることから、観光大国タイの更なる発展が見込まれます。

ベトナムレポート

「ベトナムのアフターコロナの状況」

1. ベトナム国内の現状

ベトナムでは、2022年3月に入国時の規制が撤廃され、ワクチン接種の有無に関わらず入国が可能になりました。日本人の入国については入国日から15日間の滞在について査証免除が再開されました。また、濃厚接触者の隔離廃止や、省別での感染者数の発表を停止するなど、従来の厳格な隔離政策を改め、アフターコロナへ向け舵を切りました。

2月現在では、1日の感染者数は全国で10~20人程度となっており、市中を見てもマスクをしている人の姿は少なくなった印象です。体調不良でも以前のようにPCR検査を受ける人は少なく、感染症状の軽症化により市民のコロナに対する意識も薄くなり、実態把握をしなくなっているのが現状です。



<多くの人で賑わう Nguyen Hue 通り（ホーチミン市）>

2. 外国人渡航者数と観光収入の推移

コロナ禍以前、ベトナムにおける外国人渡航者数は年々増加し続け、2016年には初の1,000万人を突破し、2019年には過去最多となる1,800万人を記録しました。それに伴い、ベトナム国内の総観光収入は、過去最高となる755兆 VND（約4.2兆円）を記録し、国内総生産（GDP）の9.2%を占める産業まで成長しました。

しかしながら、2020年からの新型コロナウイルス感染拡大による影響から、海外からの観光客の受入を停止し、厳格な入国時隔離等の施策を行ったことから、2021年は1万7千人と過去最低を記録しました。海外からの入国規制を撤廃した2022年は、366万人まで回復したものの、コロナ禍前と比較すると約5分の1の水準となっています。



(出所：General Statistics Office of Vietnam & Vietnam National Administration of Tourism)

3. アフターコロナの動き

入国規制の撤廃により、海外からの渡航者数は増加傾向にあるものの、コロナ禍前と比較すると低い水準にあり、2022年の海外からの観光客数は、350万人(計画比▲70%)となりました。しかしながら、感染状況の沈静化、国内の各種規制が緩和された結果、コロナ禍により控えられていたベトナム国内旅行が活性化し、国内観光者数は1億130万人(計画比+68.8%)、観光収入は、当初目標を23%上回る495兆VND(約2兆7,500億円)となりました。

2023年は、総観光客数1億1,000万人(国内1億200万人、海外800万人)、観光収入650兆VND(約3兆6,100億円)の目標を掲げました。計画初月の2023年1月単月では、約87万人(国別：韓国25.9万人、米国7.8万人、タイ5.5万人、日本3.4万人)が渡航しました。海外旅行が解禁された中国からは、1.5万人と当初予想からは低調であるものの、好調なスタートを切っており、観光業の再興に向けた動きに期待が寄せられます。



<ハノイ市内の観光地にも客足が戻る 左：ハノイ大聖堂 右：旧市街 Ta Hien 通り >

4. ベトナムの実質GDP成長率

ベトナム政府の発表では、2022年の実質GDP成長率は8.02%と、年初公表の政府目標6.00%~6.50%を達成し、1997年以来となる8%を超え、近年では最も高い成長率となりました。業種別では、サービス業の成長(+9.99%)が顕著であり、コロナ禍の低迷から反発し大きな成長を果たしています。

2023年度は、コロナ禍からの反発成長が落ち着き、挑戦的な目標になるとしているものの、成長率6.50%を目標に掲げました。



(出所：General Statistics Office of Vietnam)

5. おわりに

アフターコロナへ大きく舵を切ったベトナムにおいては、各種規制が撤廃され、企業活動・日常生活を見てもコロナ禍の影響は影を潜め、コロナ禍以前の活気ある姿が見られます。また、外資企業の進出も増加傾向にあり、魅力ある市場として注目を取り戻しています。過酷なコロナ禍を乗り越え、経済成長が見込まれるベトナムには、今後更なる注目が必要です。

ASEAN ニューストピックス

<タイ> ～タイのニックネーム文化「チューレン」～

タイの人々は本名とは別に「チューレン」と呼ばれるニックネームを持っています。ニックネームというと同僚や友人からつけられるあだ名を想定しますが、タイの場合は生まれたときに両親が命名します。このニックネームは、日常生活はもちろん、ビジネスシーンでも使われており、タイ人の名刺には本名とニックネームが記載されていることも多くあります。職場でも基本的にニックネームで呼び合うため、何度もやり取りをしてもお互い本名を知らないといったことも多々あります。

なぜ、タイ人はニックネームを一般的に使っているのか。それはタイ人の本名が長くて覚えられないためと言われていました。ニックネームに決まったルールはなく、短くて言いやすい名前にすることが一般的です。例えば、5月に生まれたからメイ (MAY)、両親がリンゴを好きだからアップル (Apple) といったように必ずしも本名と関連があるとは限りません。

最近のニックネームはタイ語だけでなく、英語が使われるなど様々なものがあります。タイ人の方と会った際には、ニックネームを聞き、その由来を聞いてみると面白いかもしれません。

<人気のニックネーム>

男性	ナム (水)	女性	メイ (5月)
	ニュー (新しい)		プローイ (宝石)
	ボール (球)		アイス (氷)
	ビアー (ビール)		ポー (リボン)

<ベトナム> ～仕事効率化の秘訣？ベトナムの「昼寝文化」～

ベトナムには、「昼寝文化」があるのをご存じでしょうか。ベトナムの多くの企業では、1時間半の昼休みが一般的であり、日本で一般的な1時間より長い時間が確保されています。

ベトナムの銀行では、日本の銀行でも一部導入している昼休業がほぼ全ての支店で導入されており、お昼の時間は入口のシャッターを下ろし、完全に休業しています。

ベトナム人は、昼食を30分～1時間程度で済ませ、残りの時間を昼寝の時間に充てる方が多くおります。昼寝の仕方は様々で、机に伏して寝るスタイルから、机の下のスペースに寝床を作るスタイルまで、各々が自分の昼寝スタイルを確立しています。一部の企業では、従業員の福利厚生の為、社内に仮眠室を設置しているところもあり、一般的な文化として馴染んでいます。

昼寝にはリラックス効果や、疲労回復、集中力向上、仕事効率アップ等、多くのプラス効果があるとされており、ベトナムにおける「昼寝文化」は、仕事をする上でも合理的な文化なのかもしれません。



<机の下で仮眠している様子>

東邦銀行の海外事業に係る連携・業務提携先

弊行では、各種海外の専門家と提携し、会計・税務、国際物流、貿易保険など幅広い分野でお客様の海外取引を支援しております。

<とうほうグローバル・ネットワーク>



ご提供サービス	業務提携先
海外リスクコンサルタント	東京海上日動火災保険 三井住友海上火災保険 損害保険ジャパン
海外貿易保険	日本貿易保険 (NEXI)
会計税務コンサルタント	有限責任監査法人トーマツ デロイトトーマツファイナンシャルアドバイザー
海外セキュリティー	ALSOK 福島 セコム
国際物流	日本通運
海外販路拡大	アリババ Inagora (中国向け)
翻訳・通訳サービス	パソナ

その他、お客様のニーズに合わせた、各種専門家のご紹介が可能です。ご要望の際には、お気軽にご相談ください。